

施策事業評価シート 修正済分

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1－1 介護予防の充実																									
施策・事業名		③いんざい健康ちょきん運動																									
施策の対象者		市民																									
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		住み慣れた地域で顔なじみの人たちとの生活を維持することを目的に、地域住民が歩いて参加できる場所で主体的に筋力運動を行いながら、健康づくりや地域づくりを行います。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		活動グループ数は増加しているものの、地域によってグループ数に差があります。また、健康づくりに関心が高い一方で、地域包括ケアシステム構築に向けて、住民が主体的に地域づくりを行う状況には至っていません。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
参加実人数(人)		見込み		1600	1700	1800																					
		実績値		1059	1200																						
		乖離率		-51.1%	-41.7%																						
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		コロナ禍の影響があり、感染予防対策の観点より、流行時には休止するグループや、参加者自身も外出・参加を避ける傾向があり、以前よりも参加者数が減った。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		コロナ禍の影響があり、一時は参加実人数の減少や、グループ自体が活動を休止することがありました。休会している方への見守りや、活動を土台とした地域のつながりの強化が今後の課題です。																									
今後の方向性		コロナ禍を機に、地域のつながりの必要性を感じている方が多くなっているため、年齢や介護認定を問わず、集まることを目的とした健康づくり・地域づくりの場であることを改めて周知・啓発していきます。また、見守り等を含めた地域の支え合い活動へ発展できるよう後押しを行っていきます。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																					
参加実人数(人)		見込み	1900	2000	2100	4000																					
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1ー2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																									
施策・事業名		①医療・社会資源の把握																									
施策の対象者																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		住民の医療・介護へのアクセスを容易にし、医療・介護関係者の連携を促進するため、地域の医療・社会資源の把握をし、市民や関係者に情報提供します。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		医療機関等に対して、2年毎にアンケート調査を行い、「介護と医療サポートガイド」の情報更新をしています。内容について検証の必要があります。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
介護と医療サポートガイド等(配布数)		見込み	600	600	600	600																					
		実績値	600	600	600	600																					
		乖離率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%																					
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が大きかった理由として考えられること																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		情報提供できる訪問診療可能な市内の医療機関が少ない状況が続いている。在宅療養を希望される方たちが、在宅療養について資源を含め、在宅療養についての見通しや必要な心構えができ、適切なサービスが切れ目なく提供される体制づくりの周知が課題となっている。																									
今後の方向性		介護と医療サポートガイドに掲載されている医療機関については、市内の医療機関に限らず、市内に訪問可能な近隣市の情報を掲載していく。また、この冊子が支援機関の資料として活用されるだけでなく、必要とされるより多くの市民に活用していただくための内容を検討し、講演会などでも周知していく。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																					
介護と医療サポートガイド等(配布数)		見込み	600	600	600	600																					
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1ー2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																									
施策・事業名		②在宅医療・介護連携推進会議																									
施策の対象者																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域の医療・介護関係者などが参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状把握と課題の抽出、対応策などの検討を行っています。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		医療・介護の連携における地域の現状や課題の把握に努め、対応策を話し合っています。課題に対する具体的な対応策を検討し連携会議に提案するために、ワーキンググループの立ち上げを行いました。今後は課題ごとのワーキングを機能させていく必要があります。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
在宅医療・介護 連携推進会議開 催(回)		見込み	2	2	3	3																					
		実績値	2	2	3																						
		乖離率	0.0%	0.0%	0.0%																						
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		在宅医療・介護連携の現状把握と課題の抽出が充分ではない状況である。																									
今後の方向性		令和3年度から認知症初期集中支援チーム検討委員会と合併したため、認知症対策を含めた現状把握と課題を抽出し、計画に反映させた取り組みについて見直しを行っていく。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																					
在宅医療・介護連携推進会議開催(回)		見込み	3	3	3	3																					
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨					
				規模(量)																							
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1-2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																											
施策・事業名		③切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																											
施策の対象者																													
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進します。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		サービス事業者間の横のつながりはできつつありますが、今後は多職種間でネットワークを構築する必要があります。在宅医療や訪問看護等の資源が少ないことから、市民が希望する在宅医療を十分に提供するためにも、関係者間で連携を図る必要があります。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
提供体制の構築		見込み	評価・改善	実施	評価・改善	実施																							
		実績値	実施	実施	実施																								
		乖離率	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!																								
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																													
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		医療・介護関係者の知識の向上と連携強化を図るために、多職種でそれぞれの役割などについて共有したり、知識を習得するなどについての強化が課題となっている。																											
今後の方向性		在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進するために情報共有や知識習得等のための多職種連携研修を開催する。 在宅医療・介護連携体制の構築のための仕組みづくりとして⑦医療・介護関係者の連携推進に集約する。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																							
提供体制の構築		見込み																											
施策・事業の方向性→																													
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						C																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1ー2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																											
施策・事業名		④在宅医療・介護連携に関する相談支援																											
施策の対象者																													
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置により、連携の取り組みを支援します。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		第7期計画において、相談窓口は委託化を検討していましたが、在宅医療・介護連携推進会議の審議を経て、当市や近隣市町の現状を踏まえ、委託は見送りとしました。当面は、市に設置した状態を継続し、関係機関が互いに連携を図りやすい関係の構築に努めます。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
相談窓口の設置		見込み	実施	実施	実施	実施																							
		実績値	実施	実施	実施																								
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																													
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		在宅医療・介護連携に関する相談支援の担当課についての周知不足により、連携体制の構築に向けた課題把握のための情報収集が充分ではない状況である。																											
今後の方向性		在宅医療・介護連携に関する課題が生じた際の関係機関からの相談先を高齢者福祉課とし、課題把握に努め、連携強化のための研修会等を実施する。 在宅医療・介護連携体制の構築のための仕組みづくりとして⑦医療・介護関係者の連携推進に集約する。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																							
相談窓口の設置		見込み																											
施策・事業の方向性→																													
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						C																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1ー2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																									
施策・事業名		⑤地域住民への普及啓発																									
施策の対象者																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域住民(本人や家族)が在宅での医療や介護について理解し、自分自身で選択することができるように、講演会等の開催や情報提供媒体の作成による情報提供等を行い、普及啓発活動に取り組んでいます。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		介護と医療サポートガイドの見直しを行い、情報の更新や提供を行っています。市民健康講演会を開催し、在宅医療・介護についての周知理解に努めていますが、まだ十分に周知されていない状況です。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
講演会等の開催(回)		見込み	1	1	1	1																					
		実績値	0	0	1																						
		乖離率	-100.0%	-100.0%	0.0%																						
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		令和2年度と令和3年度は、コロナ禍の影響で開催を中止したため。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		在宅療養を希望する方たちだけでなく、より多くの市民が在宅医療・介護について理解を深め、自分で選択することができるための看取りのテーマを含めた周知が課題である。																									
今後の方向性		在宅医療や介護についてより多くの市民の理解を深めるための講演会を開催していく。また、介護と医療サポートガイドは、在宅医療と介護についてよりイメージしやすく活用される内容を検討し、引き続き、ホームページ掲載や講演会などでの周知を行う。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																					
講演会等の開催(回)		見込み	1	1	1	1																					
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1-2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																									
施策・事業名		⑥医療・介護関係者の情報共有の支援																									
施策の対象者																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		情報共有シート、地域連携パス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援します。 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用できるようなツールを検討します。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		事業所を対象にしたアンケート調査では、ケアマネジャーの8割が千葉県地域生活連携シートを活用していることが把握できました。また、病院連絡会研修会においては、千葉県地域生活連携シートの活用について、意見交換を行いました。入退院時の連携においては千葉県のシートが普及しているため、活用にあたっての問題点等の情報交換を継続します。今後は、在宅での医療連携や看取り、急変時の情報共有について検討する必要があります。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
情報共有ツール等		見込み	シートの共有	ツールの作成	ツールの共有	ツールの見直し																					
		実績値	実施	未実施	未実施・意見聴取																						
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		現在、介護報酬加算の算定にも活用できる千葉県の地域生活連携シートを活用されており、市独自のツールは使用不可の病院もある中、ケアマネの負担が増える懸念もあると意見を聴取したためツール作成は未実施とした。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		医療・介護関係者間での情報共有の場が設けられていない。																									
今後の方向性		医療・介護関係者の情報共有の場として、多職種連携研修や地域ケア会議を活用する。 必要に応じて情報共有ツールを整備する。 在宅医療・介護連携体制の構築のための仕組みづくりとして⑦医療・介護関係者の連携推進に集約する。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																					
情報共有ツール等		見込み																									
施策・事業の方向性→																											
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨					
				規模(量)																							
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						C																					

担当課(担当部署名)	高齢者福祉課
------------	--------

基本目標	地域包括ケアシステムの深化・推進
基本目標(中項目)	
施策項目	施策の方向1ー2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築
施策・事業名	⑦医療・介護関係者の連携推進
施策の対象者	
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要	介護関係職員に対して医療知識取得のため、または医療と介護相互の理解促進のために連絡会や研修会を企画し、在宅医療・介護連携の円滑化を図ります。
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況	病院連絡会、事業所連絡会、多職種連携研修企画ワーキング等で、医療と介護の相互理解を図ります。参加者から、まずは顔が見える関係を作ることが重要との声がありましたが、知識の向上を図るためには定期的に開催し情報交換する場が必要であり、今後の課題です。

現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)					
指標名(単位)	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
研修会の開催(回)	見込み	1	1	2	2
	実績値	0	1	2	
	乖離率	-100.0%	0.0%	0.0%	
	実績値				
	乖離率				
	実績値				
	乖離率				
目標(推計)と実績の差が大きかった理由として考えられること	令和2年度はコロナ禍の影響で開催を中止したため。				

次期計画(第9期)の取組または方向性について	
施策または事業の課題	医療・介護関係者の知識の向上と連携強化を図るために、多職種でそれぞれの役割などについて共有したり、知識を習得するなどについての強化が課題となっている。
今後の方向性	在宅医療・介護連携に関する課題が生じた際の関係機関からの相談先を高齢者福祉課とする。また、より多くの職種が参加して知識を習得し、顔の見える関係を構築することができるよう研修の内容についても検討し、連携を推進していく。

次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)						
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度
研修会の開催(回)		見込み	2	2	2	2
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤	

		規模(量)		
		拡大	維持	縮小
費用	拡大	①	②	③
	維持	④	⑤	⑥
	縮小	⑦	⑧	⑨

施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)	A
---	----------

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1-2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																											
施策・事業名		⑧地域ケア会議の推進																											
施策の対象者																													
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		多職種が協働し、個別ケースの支援のために実務者レベルの地域ケア会議を開催するとともに、そこで蓄積された最適な手法や把握した社会資源・地域課題を関係者と共有・検討するために、市レベルの地域ケア会議を開催します。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		圏域ごとに地域ケア会議を開催していますが、課題抽出には至っていない状況です。 地域包括支援センターと地域ケア会議の活用の仕方などを協議し、市レベルの地域ケア会議につなげる必要があります。また今後は、介護予防事業と関連した、自立支援型地域ケア会議への取り組みも必要です。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
市レベルの地域 ケア会議の開催(回)		見込み	1	1	1	1																							
		実績値	1	1	1																								
		乖離率	0.0%	0.0%	0.0%																								
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																													
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		圏域全体での地域課題の発見につながる個別課題の分析には至っていません。それぞれの地域ケア会議が独立してしまわないように、個別課題から地域課題を抽出し、市全体での課題解決につなげるためのシステムづくりが課題です。																											
今後の方向性		地域包括支援センターと連携し、引き続き、地域思いやり会議、自立支援型地域ケア会議で個別ケース検討を行い、個別ケースから浮かび上がった地域課題を各圏域ごとに協議する、地域ケア推進会議を踏まえた、市レベルの印西市地域ケア会議を開催します。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																							
市レベルの地域ケア会議の開催(回)		見込み	1	1	1	1																							
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																											
施策・事業名		①認知症ケアパスの作成																											
施策の対象者		市民																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		認知症の人が、できる限り住み慣れた自宅で暮らし続け、また認知症の人やその家族が安心できるよう、標準的なケアパス(状態に応じた適切なサービス提供の流れ)を随時見直し改訂及び普及することで、認知症の人やその家族に医療・介護サービスが切れ目なく提供されるようにします。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		令和元年度に改訂を行い、より見やすく一般の人にもわかりやすい内容としましたが、ケアパスの存在を知らない人も多くいます。多くの人が認知症を理解し、必要なケアをスムーズに受けることで、できる限り住み慣れた地域で生活ができるよう、ケアパスの活用について周知を図る必要があります。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
認知症ケアパス(枚)		目標値	2000	2000	2000	2000																							
		実績値	2000	2000	2000	2000																							
		乖離率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%																							
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																													
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		認知症ケアパスが、よりわかりやすく、当事者や家族がサービス提供の流れを理解し、安心できる内容にする必要がある。そのためには当事者や家族の意見を反映させることが重要だが、当事者の思いや意向を十分に取り入れることができていない。																											
今後の方向性		内容に当事者や家族の意向を反映させ、よりわかりやすい内容となるよう、様々な場において当事者や家族の意見を集約できるよう、認知症地域支援推進員等との連携を持ちながら検討を重ねていく。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																							
認知症ケアパス(枚)		目標値	2000	2000	2000	2000																							
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1ー3 認知症施策の推進																									
施策・事業名		②認知症カフェ																									
施策の対象者		認知症の人・家族・専門職・地域住民																									
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域での日常生活強化・家族支援に向けて、認知症の人・家族・専門職・地域住民など誰もが参加でき、和やかに集う「認知症カフェ」を圏域にて開催します。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		認知症に対する理解を深めてもらうため、当事者やその家族と地域の方の交流を図ることが必要と考えますが、当事者やその家族の参加数が増えない現状があります。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
参加人数(人)		見込み	407	410	420	430																					
		実績値	400	317	384																						
		乖離率	-1.8%	-29.3%	-9.4%																						
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		新型コロナウイルス感染症拡大により、開催回数や1回の参加人数が制限されたことによる																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		認知症カフェは、当事者、家族、地域住民、支援者等が集い、交流することで認知症に対する理解を深める目的があるが、当事者や家族の参加が増えていない。当事者の意見を聞くことができる場でもあるため、当事者や家族の参加が増えるようにする必要がある。																									
今後の方向性		当事者の参加が増えるよう、会場や内容について認知症地域支援推進員等と意見交換を重ねる。また、多様な主体によるカフェの開催も推進しながら、当事者や家族を積極的に誘いしたり、居宅介護支援事業所に周知を図るなどして参加者が増えるよう働きかけていく。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																					
参加人数(人)		見込み	440	450	460	500																					
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						B																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																									
施策・事業名		③人材育成																									
施策の対象者		医療や介護の相談・支援に係る人																									
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域での日常生活強化・家族支援に向けて、認知症になっても地域で生活を継続していくために、医療・介護及び生活支援ネットワークを構築し、必要な人材を育成しています。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		すべての地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置するなど人材は増えていますが、医療・介護及び生活支援ネットワークの構築や、認知症施策にかかわるリーダーとして活動できる人材の育成が必要になっています。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
認知症地域支援 推進員ほか増員 (人)		見込み	3	10	10	10																					
		実績値	3	9	12	5																					
		乖離率	0.0%	-11.1%	16.7%	-100.0%																					
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		すでに全ての地域包括支援センターで認知症地域支援推進員が配置されているため、増員数は伸びない。指標を活動中の推進員数とすることが望ましいと考える。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		認知症地域支援推進員が、認知症支援に必要な事業等について意見を出し合い、市と共同してそれを実現していく必要がある。相談の現場で感じた必要性を速やかに施策に反映したいが、認知症に関する事業が多く、意見の集約が進まない現状がある。																									
今後の方向性		全ての地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を継続して配置し、意見交換会等を通じて施策に反映できる具体策を提言していく。具体策の実現までのスピードをあげるため、事業を分類しそれぞれ主に取り組む人員を決めて、意見の集約が進んでいく体制で取り組む。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																					
活動中の認知症地域支援推進員数		見込み	15	15	15	15																					
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																									
施策・事業名		④認知症サポーター養成																									
施策の対象者		小学生以上の市民																									
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域での日常生活強化・家族支援に向けて、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域で認知症の人や家族に対して、できる範囲の手助けをする認知症サポーターを養成しています。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		小学校での養成は継続しているが、中学校では実施できていません。また、即戦力として活躍が期待できる職域や一般企業での養成が増えていかない現状があります。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
認知症サポーター 一養成(人)		見込み	1276	1200	1200	1200																					
		実績値	1276	1033	1565																						
		乖離率	0.0%	-16.2%	23.3%																						
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		企業や高等学校などからの依頼が増えたことや、個人でも参加可能な養成講座を開催したことによる。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		認知症の人が安心して住める地域とするには、認知症について正しい知識を持つことが必要であり、サポーターの養成は続けていく必要がある。サポーターが実際の支援者となれるよう、職域や成人に対する講座の開催を増やしていかなければならない。																									
今後の方向性		小学校での実施を継続しつつ、地域で実際に支援者となる人材として認知症サポーターを養成していけるよう、職域や地域の集まり等での養成講座を実施できるよう周知を積極的に行う。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																					
認知症サポーター養成(人)		見込み	1200	1200	1200	1200																					
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																								
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																								
基本目標(中項目)																										
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																								
施策・事業名		⑤初期集中支援チームの設置																								
施策の対象者		認知症やその疑いがある市民とその家族、および係りのある専門職																								
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けるため、適切な医療や介護サービス等の利用につながない認知症の人やその家族に早期にかかわる初期集中支援チームを配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築を図っています。																								
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		初期集中支援の対象になるケースの選定や、支援につなげるタイミングを図ることが難しく、適切な時期に支援を開始することが難しいのが現状です。初期集中支援の対象者や目的などについて関係者が理解を深め、より効果的な時期に支援が開始できるようにしていく必要があります。																								
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																										
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																				
初期集中支援チームの対応件数 (件)		見込み	5	7	9	11																				
		実績値	5	8	4																					
		乖離率	0.0%	12.5%	-125.0%																					
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
目標(推計)と実績の差が大きかった理由として考えられること		初期集中支援チームの利用に至らなかった案件が増えたため。地域包括支援センターで対応している案件が増えているほか、認知症疾患医療センターに相談することで実際の対応は包括やケアマネジャーが行えていると推測される。																								
次期計画(第9期)の取組または方向性について																										
施策または事業の課題		対応件数が伸びない要因として、初期集中支援を必要とする案件の発掘ができていない可能性があるが、把握が困難。																								
今後の方向性		必要時にスムーズな支援が開始できるよう、初期集中支援チームとの連携体制を維持するとともに、チームの存在や役割について居宅介護支援事業所や医療機関などに周知を図っていく。また、より効果的なタイミングで支援ができるよう、関係機関で支援の在り方について検討を行っていく。																								
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																										
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																				
初期集中支援チームの対応件数(件)		見込み	10	10	10	10																				
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																					
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
				規模(量)																						
		拡大	維持	縮小																						
費用	拡大	①	②	③																						
	維持	④	⑤	⑥																						
	縮小	⑦	⑧	⑨																						
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																				

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																									
施策・事業名		⑥早期発見事業																									
施策の対象者		市民																									
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		認知症やその前段である軽度認知障害(MCI)の相談できる場を作り、軽度認知障害(MCI)が早期に発見でき、適切な医療機関に連携できるよう早期発見事業を行っていきます。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		軽度認知障害(MCI)を確認できるツールを導入し活用中ですが、本当に心配な人は使いたがらないことも多く、多くの方が気軽に相談できる場を作ることが必要です。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
早期発見事業 (物忘れプログラム実施数)(人)		見込み	90	95	100	105																					
		実績値	0	10	16																						
		乖離率	-100.0%	-850.0%	-525.0%																						
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		コロナ禍で多くの人が集まるイベントが減少し、プログラムを活用する場が減ったことや、1回のカフェやイベントで対応できる人数に限りがあることが要因と考える。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		認知症について本当必要な人は不安が強いことから、ツールを使いたがらないため、プログラムの活用のみで早期発見事業を推進していくことは難しいと考える。																									
今後の方向性		プログラムの活用のほかにも、早期発見・相談につながる方法を検討していくとともに、MCIについての周知を図る。また、MCIの相談ができる場所として、地域包括支援センターやオレンジカフェなどの場があることを併せて周知していく。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																					
早期発見事業(物忘れプログラム実施数)(人)		見込み	30	30	30	30																					
施策・事業の方向性→			⑥	⑥	⑥																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						C																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																									
施策・事業名		⑦認知症周知啓発事業																									
施策の対象者		市民																									
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		認知症に対する知識を深めると同時に、認知症予防の方法を学習することで、一人ひとりが認知症の危険因子を減らす行動を習慣化できるように予防事業にて支援しています。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		出前講座で認知症に対する周知啓発を目指しましたが、講座の利用者数は伸びていない状況です。より多くの地域住民が認知症予防に関心が持てるように積極的に講座の実施を働きかけていく必要があります。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
出前講座 「知って安心認知症予防」参加者数(人)		見込み	24	40	50	60																					
		実績値		27	38																						
		乖離率		-48.1%	-31.6%																						
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が大きかった理由として考えられること		コロナ禍で地域での集まりが減り出前講座の依頼も減ったこと、講座の存在についての周知が足りなかったことが要因と考える。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		認知症についての興味は高まっているが、地域の集まりが減少しており、集まって話を聞く機会が減少しているため講座の開催数を伸ばすことが難しい。出前講座以外の方法で周知啓発を図る必要がある。																									
今後の方向性		出前講座の実施については積極的に周知を図る。並行して、出前講座以外の周知啓発方法について認知症地域支援推進員との意見交換を重ねながら検討し実施していく。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																					
出前講座「知って安心認知症予防」参加者数(人)		見込み	60	60	60	60																					
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																								
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																								
基本目標(中項目)																										
施策項目		施策の方向1－4 生活支援サービスの充実																								
施策・事業名		①介護予防・日常生活支援総合事業の展開																								
施策の対象者		関係機関、市民																								
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		介護予防・日常生活支援総合事業(以下、「総合事業」という。)には、要支援者等に対して必要な支援を行う介護予防・日常生活支援サービス事業があります。住み慣れた地域で生活を継続するために、要支援者等の状態に応じて選択ができるサービスの創生を目指します。																								
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		現状としては、従来の訪問・通所介護相当サービスしかなく、地域で自立した生活を目指す支援には至っていない状況です。一律のサービスではなく、その人にとって必要なサービスを選択できる支援や、一人ひとりの生きがい・自己実現を促す支援を行う必要があります。																								
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																										
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																				
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																										
次期計画(第9期)の取組または方向性について																										
施策または事業の課題		通所型サービスC、訪問型サービスDの市独自サービスを実施しているところですが、受入人数や利用人数が少なく、実施方法や周知に対し、今後も検討していく必要があります。 市民や関係機関も含め、総合事業の主旨や自立支援の方向性について、共通認識が図れていない状況です。																								
今後の方向性		地域包括支援センターや生活支援コーディネーターと連携をしながら、市独自サービスの展開方法について検討していきます。 関係機関や市民に対し、総合事業の目指す姿の共通認識が持てるよう、周知・啓発していきます。また、自分らしい生活が実現できるために、自分自身が何をしたいかを考え、自らが実現に向けて取り組めるよう、自立支援への啓発も行っていきます。																								
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																										
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																				
施策・事業の方向性→																										
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
				規模(量)																						
		拡大	維持	縮小																						
費用	拡大	①	②	③																						
	維持	④	⑤	⑥																						
	縮小	⑦	⑧	⑨																						
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						B																				

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課				
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進				
基本目標(中項目)						
施策項目		施策の方向1－4 生活支援サービスの充実				
施策・事業名		②生活支援サービスの体制整備・充実				
施策の対象者						
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		住民主体の活動や社会福祉法人、NPO、社会福祉協議会、シルバー人材センター、地縁組織などの多様な主体による多様なサービスの提供体制を構築し、地域の支え合いの体制作りを推進することを目指すものです。				
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		市内各圏域に生活支援コーディネーターを配置し、生活支援や介護予防に対するニーズの把握を行っております。地域の支え合いの体制づくりを推進するため、体制整備の必要性について積極的に周知を図り、地域の担い手の発掘を行っていく必要があります。				
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)						
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ワークショップ 参加者数(人)	見込み		37	45	50	55
	実績値		37	21	0	
	乖離率		0.0%	-114.3%	-100.0%	
	見込み					
	実績値					
	乖離率					
	見込み					
	実績値					
	乖離率					
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		コロナの影響で令和3年度の途中から開催していないこと、地域の支え合いの必要性についての出前講座をワークショップとは別で行っていることが理由として考えられる。				
次期計画(第9期)の取組または方向性について						
施策または事業の課題		個別支援を行うとともに地域課題の分析を行っている段階であり、具体的な地域での支え合いの体制づくりまでには至っていません。				
今後の方向性		地域課題を分析し、具体的なサービスにつなげられるよう検討を進めていくとともに、地域の支え合いの体制づくりを推進するために、生活支援サポーター養成講座を実施し、地域の担い手を育成していきます。				
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)						
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度
生活支援サポーター養成講座修了生(人)		見込み	20	20	20	
		見込み				
施策・事業の方向性→			④	④	④	
費用		規模(量)				
		拡大	維持	縮小		
		①	②	③		
		④	⑤	⑥		
		⑦	⑧	⑨		
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																							
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現																							
基本目標(中項目)																									
施策項目		施策の方向2-4 安心・安全なまちづくり																							
施策・事業名		⑥高齢者虐待防止ネットワークと高齢者虐待への対応																							
施策の対象者																									
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		関係機関とのネットワークを構築し、高齢者虐待の防止のための啓発事業、虐待の早期発見、早期対応に取り組んでいます。高齢者虐待防止のための取り組みについて話し合うとともに、介護サービス事業者等を対象に、虐待防止に向けた研修会等も開催しています。																							
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		高齢者虐待の対応については、早期発見のための地域への周知やネットワークの構築、早期対応のために関係者の対応策への理解、被虐待者を緊急保護するための施設の確保が必要です。																							
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																									
指標名(単位)	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																				
研修会の実施回数(回)	見込み	1	1	1	1																				
	実績値	0	1	1																					
	乖離率	-100.0%	0.0%	0.0%																					
	見込み																								
	実績値																								
	乖離率																								
	見込み																								
	実績値																								
	乖離率																								
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		令和2年度はコロナ禍の影響により開催できなかったが、令和3年度は開催方法を検討し、WEB開催として実施した。																							
次期計画(第9期)の取組または方向性について																									
施策または事業の課題		●高齢者虐待防止法が対象としているのは、「養護者」による虐待であるが、「養護者」に該当しない者からの虐待も高齢者虐待防止法の取り扱いに準じた対応やDV防止法の所管課に繋いでいくなどの対応が必要である。 【新設】○高齢者虐待防止対策の推進 高齢者虐待防止法に基づき、虐待等の権利侵害防止の重要性 ●サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム等についても、虐待防止対策を推進することについて記載。 ●「養護者」に該当しないものからの虐待防止のための方策を講じることについて記載。 【新設】■介護現場の安全性の確保及びリスクマネジメントの推進 介護現場の安全性の確保、リスクマネジメントの推進の重要性について記載。 【新設】■介護サービス事業者形状の調査及び分析等 経営情報を収集・把握することの重要性、都道府県・市町村の対応等について追記。																							
今後の方向性		高齢者虐待防止法に基づき、高齢者の権利利益の擁護に資することを目的として、高齢者虐待防止のための周知や関係機関との連携協力体制の構築、関係機関職員への研修等を行っていく。																							
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																									
指標名(単位)	項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年度																				
研修会の実施回数(回)	見込み	1	1	1	1																				
施策・事業の方向性→		④	④	④																					
<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">規模(量)</td> </tr> <tr> <td>拡大</td> <td>維持</td> <td>縮小</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用</td> <td>拡大</td> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>④</td> <td>⑤</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>⑦</td> <td>⑧</td> <td>⑨</td> </tr> </table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨			
				規模(量)																					
		拡大	維持	縮小																					
費用	拡大	①	②	③																					
	維持	④	⑤	⑥																					
	縮小	⑦	⑧	⑨																					
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)					A																				

施策事業評価シート 未修正分

担当課(担当部署名)		健康増進課																											
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向2-1 健康づくりの推進																											
施策・事業名		①健康教育、健康づくりの普及・啓発																											
施策の対象者																													
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		健康講演会や出前健康講座、各種集団教室等の様々な機会を活用して健康教育を実施します。 一般的な健康についての教育や、病態別、運動、食事等、健康課題に合わせた教育を実施します。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		すべてのライフステージに対する健康づくりや無関心層へのアプローチのあり方が課題です。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																													
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		すべてのライフステージに対する健康づくりや無関心層へのアプローチのありかたが課題です。																											
今後の方向性		市民が自分や家族の健康に関心を持ち、日常生活の中で身体活動量が増えるなど、自然に健康づくりに取り組める仕組みづくりを目指します。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
施策・事業の方向性→																													
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)		健康増進課																								
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現																								
基本目標(中項目)																										
施策項目		施策の方向2-1 健康づくりの推進																								
施策・事業名		②健康相談・訪問指導																								
施策の対象者																										
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		健診の結果等について、栄養や歯科も含めた健康全般に関する相談を実施しています。市民のニーズに合わせ、面接、訪問、電話等で健康相談を実施しています。																								
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		健康相談の健康相談数は増加傾向にあります。個別医療機関でも健康相談のちらしを配布し、タイミングよく健康相談の機会を設けるなど市民のニーズに合った事業展開が出来ていると考えられます。																								
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																										
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																				
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																										
次期計画(第9期)の取組または方向性について																										
施策または事業の課題		健康相談の健康相談数は増加傾向にあります。個別医療機関でも健康相談のちらしを配布し、タイミングよく健康相談の機会を設けるなど市民のニーズに合った事業展開が出来ていると考えられます。																								
今後の方向性		今後も工夫しながら、本人及び家族の健康の保持増進につながる行動の動機づけになるように助言を行い、市民のニーズに合わせて展開していきます。																								
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																										
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																				
施策・事業の方向性→																										
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
				規模(量)																						
		拡大	維持	縮小																						
費用	拡大	①	②	③																						
	維持	④	⑤	⑥																						
	縮小	⑦	⑧	⑨																						
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																				

担当課(担当部署名)		健康増進課																								
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現																								
基本目標(中項目)																										
施策項目		施策の方向2-1 健康づくりの推進																								
施策・事業名		③高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施																								
施策の対象者																										
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		高齢者一人ひとりに対し、フレイル等の心身の多様な課題に対応したきめ細やかな保健事業を行うため、運動、口腔、栄養、社会参加等の観点から保健事業と介護予防の一体的な実施を推進するものです。																								
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		実施に向けて令和2(2020)年に法的整備が行われました。後期高齢者の健診において、高齢者のフレイルを把握するための新たな「後期高齢者の質問票」を活用しています。具体的な取り組み方法については検討中です。																								
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																										
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																				
健康診断時における実施回数(回)		見込み	1	1	1	1																				
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																										
次期計画(第9期)の取組または方向性について																										
施策または事業の課題		高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、ポピュレーションアプローチとして、いんざい健康ちょきん運動や依頼教育等にて、フレイル予防や健康増進に関する正しい知識の普及及び意識付けを図ったり、必要に応じて健康相談及び受診勧奨、相談窓口の紹介等を行っています。5圏域で実施件数にばらつきがあります。ハイリスクアプローチでは、フレイルリスクや生活習慣病等の重症化リスクを有する高齢者に対し、希望者に対し保健指導を行っていますが、希望なしの人には支援ができていない状況です。																								
今後の方向性		ポピュレーションアプローチでは、5圏域全体で、さまざまな通いの場を活用してフレイル予防や健康増進に関する知識の普及等を実施していきます。ハイリスクアプローチでは、事業参加希望者だけでなく、該当者全てに対して個別支援を行っていきます。																								
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																										
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																				
健康診断時における実施回数(回)		見込み																								
施策・事業の方向性→																										
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
				規模(量)																						
		拡大	維持	縮小																						
費用	拡大	①	②	③																						
	維持	④	⑤	⑥																						
	縮小	⑦	⑧	⑨																						
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																				

担当課(担当部署名)		健康増進課				
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現				
基本目標(中項目)						
施策項目		施策の方向2-1 健康づくりの推進				
施策・事業名		④糖尿病性腎症重症化予防事業				
施策の対象者						
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		国・県が示す糖尿病性腎症重症化予防プログラムに倣い、糖尿病性腎症の発症、重症化リスクを有する者に対して、受診、継続受診を勧奨し、適切かつ継続的な保健指導を行い、糖尿病性腎症の重症化を予防し、新規透析導入を阻止することで、医療費の適正化を図ります。				
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		平成30(2018)年度に開始した事業です。対象者のレセプトを確認すると、複数の合併症を抱えた人が多く、保健指導方法が確立している腎症予防を切り口としながらも、心臓疾患、脳疾患、がんなどの予防にもつながり、QOLの維持向上や医療費の適正化への効果が得られると期待できます。医療機関との連携を一層深め、腎機能の回復が見込めるうちに保健指導が行えるよう進めます。				
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)						
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
糖尿病保健指導人数(人)		見込み				
		実績値				
		乖離率				
		見込み				
		実績値				
		乖離率				
		見込み				
		実績値				
		乖離率				
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること						
次期計画(第9期)の取組または方向性について						
施策または事業の課題		特定健康診査、39歳以下健康診査等受診者のうち、支援該当者に対し、医療機関と連携をしながら、治療中の人に対しても保健指導を実施しています。 75歳以上の後期高齢者では、前年度の健康診査等の結果より支援該当者に対し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の中で保健指導を実施しています。				
今後の方向性		今後も医療機関との良好な連携体制を維持しながら事業を継続していきます。未受診または治療中断者の高リスク状態の人に対して、受診行動につながる勧奨ができるように工夫していきます。				
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)						
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年
糖尿病保健指導人数(人)		見込み				
施策・事業の方向性→						
		規模(量)				
		拡大	維持	縮小		
費用	拡大	①	②	③		
	維持	④	⑤	⑥		
	縮小	⑦	⑧	⑨		
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A

担当課(担当部署名)		健康増進課																									
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向2－1 健康づくりの推進																									
施策・事業名		⑤特定健康診査・後期高齢者健康診査・特定保健指導																									
施策の対象者																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、メタボリックシンドロームに着目し生活習慣病予防を図るため、40～74歳の国民健康保険加入者を対象に、特定健康診査を実施し、その結果により生活習慣病を招く恐れがある人に対して、特定保健指導を行っています。また、75歳以上の方については後期高齢者健康診査を実施しています。令和2(2020)年度からは後期高齢者健康診査でフレイルの危険性が高い人を見つけるための質問を実施しています。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		令和元(2019)年度値と前回計画の平成28(2016)年度との比較では、特定健康診査受診率37.8%(+1.4ポイント)、後期高齢者健康診査受診率31.1%(+1.6ポイント)、特定保健指導実施率26.7%(+3.6ポイント)となっています。健診の受診率は横ばいですが、この間、人間ドックの利用者数は増加傾向にあります。特定保健指導については、制度変更により、集団健診受診者に、健診の場で保健指導を開始できる仕組みができたことから、保健指導が身近なものに感じられ、実施率が上昇したと考えられます。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
後期高齢者対象 フレイル質問票配布数(枚)		見込み																									
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		各種健(検)診では、若年層の受診率が低い傾向にあることから、介護予防の観点から若年層へのアプローチが課題です。																									
今後の方向性		各種健診は、生活習慣病やがんの早期発見や生活改善、介護予防等それぞれの目的を持って実施しているものの、後期高齢者健康診査を除くと、高齢者や介護対象者に限らず幅広い年代の方を対象とし、課題も共通傾向にあります。本計画の中に個別の健(検)診ごとに施策建てをすることはそぐわないと考えるため、「各種健(検)診と特定保健指導の実施」のように施策統合を検討しています。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																					
後期高齢者対象フレイル質問票配布数(枚)		見込み																									
施策・事業の方向性→																											
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨					
						規模(量)																					
		拡大	維持			縮小																					
		費用	拡大	①	②	③																					
維持	④		⑤	⑥																							
縮小	⑦		⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)					C																						

担当課(担当部署名)		健康増進課																								
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現																								
基本目標(中項目)																										
施策項目		施策の方向2－1 健康づくりの推進																								
施策・事業名		⑥がん検診																								
施策の対象者																										
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		健康増進法第19条の2に基づき、がん疾患などの予防を図るとともに、がんを早期に発見し、適切な治療に結びつけるよう事業を実施します。国の指針に基づき、胃がん検診、大腸がん検診、肺がん・結核検診、乳がん検診、子宮頸がん検診の5大がん検診を実施しています。また、印西市独自の事業として、前立腺がん検診を実施します。																								
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		健(検)診の受診率は横ばいが続いており、今後も健(検)診を受診する機会がない市民へ周知や啓発を引き続き行いながら、受診を促進していく必要があります。また、精密検査受診の対象となられた方が、速やかに受診行動に移せるよう受診勧奨を行い、精密検査受診率向上を図っていきます。																								
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																										
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																				
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																										
次期計画(第9期)の取組または方向性について																										
施策または事業の課題		各種健(検)診では、若年層の受診率が低い傾向にあることから、介護予防の観点から若年層へのアプローチが課題です。																								
今後の方向性		各種健診は、生活習慣病やがんの早期発見や生活改善、介護予防等それぞれの目的を持って実施しているものの、後期高齢者健康診査を除くと、高齢者や介護対象者に限らず幅広い年代の方を対象とし、課題も共通傾向にあります。本計画の中に個別の健(検)診ごとに施策建てをすることはそぐわないと考えるため、「各種健(検)診と特定保健指導の実施」のように施策統合を検討しています。																								
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																										
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																				
施策・事業の方向性→																										
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>					規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨			
		規模(量)																								
		拡大	維持	縮小																						
費用	拡大	①	②	③																						
	維持	④	⑤	⑥																						
	縮小	⑦	⑧	⑨																						
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						C																				

担当課(担当部署名)		健康増進課																								
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現																								
基本目標(中項目)																										
施策項目		施策の方向2-1 健康づくりの推進																								
施策・事業名		⑦骨粗しょう症検診																								
施策の対象者																										
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		若い世代から骨密度測定を実施することにより、骨粗しょう症予防への意識づけを行い、高齢期の骨折のリスクを減少させ介護予防に結びつけます。																								
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		若い世代の受診率が低いため、受診勧奨はがきや検診に関する案内ちらし等で引き続き周知を行いながら、受診を勧奨していく必要があります。																								
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																										
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																				
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																										
次期計画(第9期)の取組または方向性について																										
施策または事業の課題		各種健(検)診では、若年層の受診率が低い傾向にあることから、介護予防の観点から若年層へのアプローチが課題です。																								
今後の方向性		各種健診は、生活習慣病やがんの早期発見や生活改善、介護予防等それぞれの目的を持って実施しているものの、後期高齢者健康診査を除くと、高齢者や介護対象者に限らず幅広い年代の方を対象とし、課題も共通傾向にあります。本計画の中に個別の健(検)診ごとに施策建てをすることはそぐわないと考えるため、「各種健(検)診と特定保健指導の実施」のように施策統合を検討しています。																								
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																										
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																				
施策・事業の方向性→																										
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
				規模(量)																						
		拡大	維持	縮小																						
費用	拡大	①	②	③																						
	維持	④	⑤	⑥																						
	縮小	⑦	⑧	⑨																						
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						C																				

担当課(担当部署名)		健康増進課																									
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向2-1 健康づくりの推進																									
施策・事業名		⑧口腔疾患健診																									
施策の対象者																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		健康増進法第19条の2に基づき、歯周病の発症率が高くなる30歳以降の市民に対し口腔疾患健診を実施することにより、歯周病に限らず口腔内の疾患に対し予防意識を持たせ、高齢期の歯の喪失を防ぎます。また、健診後早期に受診勧奨をすることにより、口腔内疾患の進行を抑制します。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		男性や若い世代の受診率が低いため、受診勧奨はがきや健診に関する案内ちらし等で引き続き周知を行いながら、受診を勧奨していく必要があります。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		各種健(検)診では、若年層の受診率が低い傾向にあることから、介護予防の観点から若年層へのアプローチが課題です。																									
今後の方向性		各種健診は、生活習慣病やがんの早期発見や生活改善、介護予防等それぞれの目的を持って実施しているものの、後期高齢者健康診査を除くと、高齢者や介護対象者に限らず幅広い年代の方を対象とし、課題も共通傾向にあります。本計画の中に個別の健(検)診ごとに施策建てをすることはそぐわないと考えるため、「各種健(検)診と特定保健指導の実施」のように施策統合を検討しています。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																					
施策・事業の方向性→																											
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨					
						規模(量)																					
		拡大	維持			縮小																					
		費用	拡大	①	②	③																					
			維持	④	⑤	⑥																					
縮小	⑦		⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)					C																						

担当課(担当部署名)		スポーツ振興課																											
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向2-2 生きがいづくりと社会参加の推進																											
施策・事業名		②生涯スポーツの充実																											
施策の対象者																													
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		高齢者の健康維持には、適度な運動(スポーツ)も必要なことから、楽しみながらできるニュースポーツ等の普及に努める。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		令和2年度、3年度後期は、新型コロナウイルス感染症の感染状況により教室が中止となったが、令和4年度の教室を開催した際には、楽しみながらできるニュースポーツ等の普及を図ることができた。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
事業実施回数(回)		目標値	2	2	2	2																							
		実績値	0	1	2																								
		乖離率	-100.0%	-100.0%	0.0%																								
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		新型コロナウイルス感染症拡大の影響による事業中止。																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		高齢者の健康維持を図るため、取り組みやすいニュースポーツの紹介と普及に努めるとともにニュースポーツ教室の開催について、引き続きPRを行う必要がある。																											
今後の方向性		地域団体やサークル等に対して要望に応じた指導者の派遣やニュースポーツ教室の開催の周知に努める。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
事業実施回数(回)		目標値	9	9	9																								
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課・社会福祉課				
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進				
基本目標(中項目)						
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進				
施策・事業名		⑧成年後見制度の利用促進				
施策の対象者		全市民				
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		ひとり暮らし高齢者や認知症の人の増加が見込まれる中で、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けるために、権利擁護を必要とする人を制度に結び付けるとともに、地域で被後見人等を支える市民後見人の養成に取り組み、支える側も支えられる側も、安心して生活できる体制を整えます。				
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		成年後見制度の利用促進を図るため、令和5年度に印西市社会福祉協議会に成年後見支援センターを設置し、相談体制の整備や制度の周知等を行っております。今後は、センターと市の連携体制を強化することに加え、各種相談機関ともネットワークの強化を図ることが必要です。				
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)						
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
センター相談者数(人)		目標値				30
		実績値				
		乖離率				
		実績値				
		乖離率				
		実績値				
		実績値				
		乖離率				
		目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること				
次期計画(第9期)の取組または方向性について						
施策または事業の課題		権利擁護支援に携わる地域の支援者が少ないため、地域における権利擁護支援の受け皿がセンターしかない状態にある。成年後見制度を含む権利擁護支援の支援者を増やしていくことが課題と考えている。また、制度の利用が必要な方を発見した際に、センターに適切に繋がれるように、関係機関との連携を強化していく必要があると考えている。				
今後の方向性		成年後見制度の利用促進が適切に図られるように、市及びセンターの相談機能強化や制度の周知を継続的に行っていきます。また、(数年に1度)地域で被後見人等を支える市民後見人の養成を行い、地域で権利擁護支援に携わる支援者を増やしていきます。				
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)						
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年
センター相談者数(人)		目標値				
施策・事業の方向性→						
規模(量) 費用 拡大 維持 縮小 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨						
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A